

岡山市の都市計画道路

岡山県 正会員○篠田清輝
岡大院 学生員 柳田陽彦
岡山大 正会員 明神 証

1. はじめに

戦災復興都市計画の中で「岡山特別都市計画街路」が決定（1946年）されて半世紀近くになる。都市内の道路は、自動車交通急増のずっと後方から懸命に整備の努力が払われてきたのであるが、それだけに都市内外の状況の急激な変化に遅れをとってしまっ、整備計画が空振りになりかねないケースがでてくる。ここでは、岡山市の都市計画道路網の50年近くの間の変遷を概観することによって、問題の2、3の側面について報告する。

2. 都市計画道路網の変遷

図-1は、1946年の「岡山特別都市計画街路」と1990年現在の都市計画道路網である。この間の道路網としての主な変化はつぎのものである。

（1）通過交通への対応、（2）放射環状化、（3）幹線化および（4）郊外サブネットワーク形成。

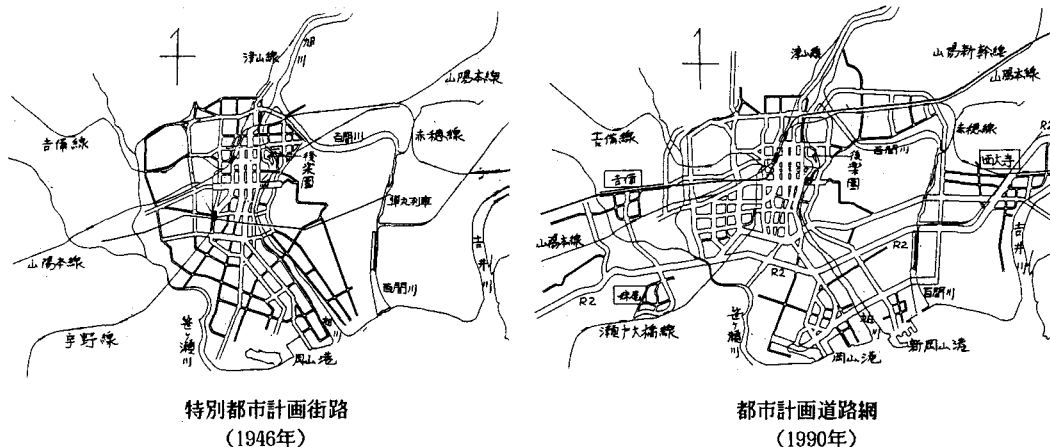


図-1 岡山市都市計画道路網

ただし、ここに述べた順番に生じたというわけではなく、また互いに無関係に起こったわけでもない。各項の意味について簡単に説明しておく。

（1）通過交通への対応

いわゆる通過交通を市街地交通から分離するためのバイパス計画である。岡山市最初のバイパスの都市計画決定は国道2号バイパスであり、新岡山国道1号線として1966年に計画決定された。国道53号バイパスの計画決定はこの9年後である。

（2）放射環状化

1946年の特別都市計画街路網（図-1）にみられるように、大元駅（弾丸列車計画における新岡山駅）を中心とする、若干の放射幹線が計画され、また郊外環状線が計画された。しかし、よく3環状といわれるよ

うに、3番目の環状線を構成するべく意図的に計画決定されたのは、おもに1975年以後である。なお、放射幹線は、市街地の拡大、市域の拡張とともに延伸していった。

(3) 幹線化

特別都市計画街路は図-1にみるように、高密度な道路配置となっていたが、1960年に戦災復興から都市改造へと引き継がれるにしたがって計画道路の統廃合が進められた。このことを本報告では幹線化と称しているのであるが、全体的には1960年から1965年にかけて進められた。

(4) 郊外サブネットワークの形成

図-1にみるように、郊外部には5つのサブネットワークが形成された。このうち2つ（南部及び北東部）は市街地の拡大、東西の3つは合併編入による市域の拡張にそれぞれよるものである。それぞれが中心市街地と結ばれるように放射線が計画決定されていることはいうまでもない。

3. 変遷の背景についての議論

上にあげたような都市計画道路網の変化を生ぜしめた背景についての議論を行いながら、2, 3の問題を示してみる。いうまでもなく変化の直接的な原因は人口の増加と自動車の普及とによる市街地の拡大と自動車交通量の増加であるが、これに制度上ないし行政上の要因がからんでいることにちがいはない。

(1) 戦災復興から都市構造の計画的誘導へ

2の(3)でのべたように、1946年からの15年間は戦災復興計画にもとづく街路網づくりであった。1946年計画の街路網（図-1）は「1927年の道路計画（1945年に廃止）をふまえ」かつ「将来の自動車交通に適応させることを期して」いるのであるが、このように郊外部においてとくにきめ細かな幹線の街路網が計画されていることが興味深い。整備の中心的手法が土地区画整理事業であったことも、このようなきめ細かい計画網としたことの1因となったのであろうか。

1960年の都市改造を基本とする事業によって、主要道路の拡幅が中心的な課題となって以後は、いわば幹線主義を基調とするようになった。

この後、市街地の外延的拡大とともに(2)の放射環状型を基本とする計画へと移行してきたのであるが、とくに外側の環状線計画の主目的は環状線ぞいの都市機能の配置によるサブ拠点の育成におかれるようになった。既往の計画の中で、このような計画思潮の変化にいわばとり残された状態にある計画道路がかなりの数に上る。

(2) 土地利用の変化と市町村合併・編入

上述の(1)は全国的な基調の流れであるが、これはむしろ岡山市に固有である。

土地利用の変化に関連するケースとして、市南部の港湾（岡山港）付近についてみる。図-1には当初港湾の果たすべき役割の重要性が、市街地部との間の幹線的計画道路の数の多さによって示されている。ところが、新産業都市建設の中心が水島地区へと変更されるにともない、1960年代から港湾を重視した道路計画は統廃合されていった一方で、いくつかの計画道路はほとんど未整備のままになっている。

合併・編入にともなう計画道路のとり扱いについて、対照的なちがいがみられる。1つは合併以前の自らの計画道路を見直し（統廃合）した後に合併したやり方（旧西大寺市）、他は編入を予想しながら計画決定を進めた道路をそのまま移行したやり方（旧吉備町、旧妹尾町）である。後者はほとんど未整備のままであり、見かけ上、前者にくらべて整備遅れが著しい。

4. むすび

大枠についてのみ報告した。詳細の記述と今後の対応のための基本的なところでの議論については他日を期したい。